

夢二の次男・竹久不二彦の画業

前期

秋聲と夢二

—徳田秋聲著・
竹久夢二装幀本を中心に—

—「竹久家コレクション」にみるイラストレーター・画家・美術教師としての実像—

当館では、平成30年度(2018)に、竹久夢二(1884-1934)とその次男・不二彦(1911-1994)の作品や遺品から成る「竹久家コレクション」の一括寄託を受け、令和2年度までに全点収蔵しました。

夢二の三人の息子たちのうち、不二彦のみ父に育てられ、自由な教育方針のもと芸術的な感性を養いました。成人後は、イラストレーターとして活躍するかたわら、趣味で絵画制作も楽しみました。また、1950年代には北海道の沙流郡門別町(現日高町)富川で中学・高校の美術教師として教壇に立ち、多くの生徒から慕われていました。この度の展覧会では、「竹久家コレクション」のなかから、昭和期に活動した不二彦の知られざる画業を紹介します。

さらに、徳田秋聲生誕150年記念コーナー展示では、徳田秋聲記念館所蔵の秋聲著・夢二装幀本を特別に展示し、ふたりの関わりを紹介します。ここでは、装幀を手がけた時期の美人画や子ども絵、デザイン作品など、関連する当館所蔵の夢二作品も展示します。



竹久不二彦、平岩弓枝著「女の気持ち」第3話挿絵下絵、
インク・鉛筆/紙、昭和48年(1973)、当館蔵



竹久不二彦「木造建築／二点透視図法」、
鉛筆・色鉛筆/紙、1950年代、当館蔵



竹久不二彦「魚」、油彩/キャンバス、昭和中期、当館蔵



竹久不二彦「日本橋」(スケッチブックより)、
鉛筆/紙、昭和中期、当館蔵

竹久不二彦略年表

- 1911年 竹久夢二、岸たまきの次男として誕生。
- 1925年 文化学院入学。学院長・西村伊作の長男・久二と同級となり親しくなる。
- 1930年 夢二の榛名山美術研究所の計画に群馬県で協力。
- 1931年 夢二の紹介で図案会社「オリオン社」に在籍。後に入社した辻一(まこと)と生涯の親交を結ぶ。
- 1934年 夢二死去。青島より新聞で知り帰国。この年以降、依頼に応じて全国で夢二の顕彰活動に協力。
- 1935~36年 山梨県・西湖湖畔の山小屋で西村や辻らと過ごす。
- 1940~45年頃 新聞、雑誌の挿絵や書籍の装幀を手掛ける。
- 1940年 「竹久夢二七周忌記念遺作展覧会」開催。委員会の常任委員を務める。
- 1945年 大田区「拓北開拓団」団長となり北海道・門別に入植。
- 1949~58年 門別の富川中学校と高校の美術教師を務める。
- 1958・59年 東京へ戻り、ハヤカワ・ノヴェルズをはじめ書籍、雑誌の表紙や挿絵、趣味の絵画制作多数。
- 1973~74年 平岩弓枝著「女の気持ち」(『婦人公論』連載)に挿絵。
- 1985年頃~ 入退院を繰り返しながら、制作をつづける。
- 1994年 永眠。

展覧会関連イベント

展示解説

当館の館長もしくは学芸員が展示の見どころを解説します。
日時：10月10日(日)、11月7日(日) 14時00分~14時20分
※人数制限など最新の状況については当館HPにてお知らせいたします。

イベント

「湯涌(ゆ8・9)でわくわくしよう」オリジナルグッズプレゼント
日時：11月8日(月)、12月8日(水) 9日(木)

金沢湯涌夢二館

Kanazawa Yuwaku Yumeji-kan Museum

石川県金沢市湯涌町イ144-1
TEL (076)235-1112 FAX(076)235-1115
https://www.kanazawa-museum.jp/yumeji/
e-mail yumeji@kanazawa-museum.jp

休館日：毎週火曜日(祝日の場合は翌平日)
開館時間：9時~17時30分(入館受付は17時まで)
観覧料金：一般・大学生310円、団体(20名様以上)260円
65歳以上210円(祝日無料)、高校生以下無料

【交通案内】
・金沢駅よりタクシー約30分
・金沢駅兼六園口より北鉄バス「湯涌温泉」行き約45分
終点湯涌温泉バス停下車徒歩4分
・北陸自動車道金沢東インターより約45分
金沢西インターより約50分、金沢森本インターより約30分
・兼六園(金沢市中心部)から車で約20分

